SEMINAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス

No.165
2002.10～2003.6

◆ 特別講演より
①「21世紀の世界と国際秩序」小和田　恆
②「大学の将来と職員のあり方」御手洗　康
◆ 法人ニュース
◆ 平成14年度主催セミナー事業報告
◆千人会通信
◆ 平成14年度宿泊業務白書
◆ ご利用状況
◆ 主催セミナー開催予告
◆ 開館40周年記念募金
◆ 館長室から

4月13日に観桜会がありました。ご来館の皆様に遠来荘のお茶会も楽しんでいただきました。

Plain living and high thinking

財団法人　大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.
www.seminarhouse.or.jp

【特別講演】①

21世紀の世界と国際秩序

第29回国際学生セミナーより

小和田　恆

1955年外務省入省、条約局長、外務大臣官房長、駐OECD大使、外務審議官、外務事務次官、国連日本政府常駐代表を歴任。㈶日本国際問題研究所理事長を経て、2003年2月より国際司法裁判所（ICJ）判事。

私がこの大学セミナー・ハウスに最初に伺ったのは1972年の秋だったと思います。国連の問題について共同セミナーをやろうということで、私はその講師の一人として呼ばれたのでした。それが私と大学セミナー・ハウスの関係の始まりで、考えてみると、ちょうど30年という長い年月が経っているわけですが、大きく変わったのは国連というものが果たす役割です。30年前、冷戦時代の最中にあった時代の国連の役割と、今日21世紀を迎えた我々が世界の秩序というものの中で考える国連ないし世界的な協力の組織というものの役割を比べてみると、その間に大変大きな違いが出て来ていると気づきます。

1　21世紀の世界の特徴

私は21世紀を迎えた世界が直面している特徴というものは三つあると思います。この三つは相互に関連し合っているわけですが、便宜上三つの特徴として考えてみたいと思います。

①冷戦構造の終焉

冷戦は1940年代の末から80年代の末まで、僅か40年あまり世界を支配していた一つの「秩序」ですが（これを秩序と呼ぶのがいいのかわかりませんが）、今日の世界、また我々の考え方に対して大きな影響を与えてきました。核の均衡に支えられた、ある意味では非常に不安定な、しかし奇妙な安定というものが支配していたわけであります。つまり、二つの核超大国が四つに組んで、どちらも相手に対して核を使うことが自分自身の自殺を意味するという考え方の下で、全面戦争、全面対決に至るような紛争はお互いに自制して押え込むという、非常に奇妙な形での、ある意味では危なっかしい、道義的に言えば決して道徳的とは言えない、しかしそういう一つの「秩序」というものがこれまでの世界を支えてきたわけであります。

ところがその「秩序」がある日突然なくなってしまったのです。これからは皆が自由にのびのびと世界のことを考えることができるということは抽象的に素晴らしいことですが、現実には何が起きたかと言えば、一つの安定した秩序が壊れて、それにとって代わる新しい秩序というものができていないというのが現状です。

冷戦とは一体何であったのか、冷戦構造が崩壊するに至った一番大きな要素とは何であったのか、ということについての十分な学問的な分析、解明もまだなされていません。

②「国際システム」の構造的な変動

17世紀以降、近代国際社会というものが成立してから、いろいろな進化を遂げながらも一貫して存在してきた「国際システム」というものが、大きな構造的なあるいは枠組み上の進化に遭遇しているのが今日の状況ではないかと思います。人によっては冷戦構造が崩れたからそういう状態になったんだと考えるかもしれません。しかし私は実際は逆であって、そういう「国際システム」の構造的な変動というものが着実にゆっくりと動いてきたから、冷戦構造というものが持ち堪えられなくなって崩れてしまったのだと考える方が事実に近いのではないかと思います。

冷戦構造が崩れた直後に、当時のアメリカのブッシュ大統領（現大統領の父）は、「新しい国際秩序」というものがこれから世界に出てくるのだ、ということを希望を込めて宣言しました。しかし、少なくとも我々が今日直面している状態は「New international order」というものとは程遠いものであるということはお分りいただけると思います。

冷戦構造崩壊後の世界に対する、同じような楽観的な見方を象徴したもう一つのキャッチフレーズはフランシス・フクヤマというアメリカの学者が言い出した「歴史の終わり（The end of history）」という言葉であります。弁証法的な循環論の歴史というものが終わりを告げて、今や究極の真理に基づいた政治体制、究極の真理に基づいた経済体制が出て来るんだというのが、大変乱暴なまとめ方かもしれませんが、彼の主張です。しかし、本当にそうなのかということになってきますと、むしろ、政治的にも経済的にも、あるいは社会的にも非常に混乱してきているというのが今日の世界の状況であります。

政治面で一番重要なことは地域紛争の激増ということです。私は安全保障理事会の非常任理事国としての日本を代表して安保理に二年間在籍していましたが、アフリカを中心に地域紛争が激増しています。安保理が今日取り上げている問題の90％が地域紛争です。そのまた90％位がアフリカを巡る地域紛争ですが、他の地域、例えばインド・パキスタン、アフガニスタン、カンボジア、東ティモール、インドネシアのアチェ、中央アジア、ヨーロッパですらボスニアやコソボ問題などがあります。それは何故かと言うと、一番大きな要因は冷戦時代の枠組みが壊れたことによって、それまで閉じ込められていたいろいろな形での不満、不平、紛争の原因というものが外に噴出してきたからです。宗教的な違い、言語的な違い、部族の違いというものは差異としては常に存在したわけです。しかし、それがなぜ今日地域紛争という形で表れなければならなかったのかということを考えないと、この地域紛争の問題に対する本当の理解、従ってそれに対する対応というものも生まれてこないと思います。

核拡散の危険というものも広がっています。日本にとって大きな脅威を形成する可能性があるのは北朝鮮の核開発の将来という問題であります。

経済面に目を向ければ、例えば1997年にタイに端を発した東アジアの金融危機が経済危機に発展し、ラテンアメリカやロシアなどにも飛び火し、一時はシステムとしての世界経済というものが破綻に至り兼ねないような状況に直面しました。世界市場というものがモノ、金融、サービス、すべての面において、一体化してきたことから出てくるこの問題が、今日の経済システムを非常に不安定なものにしていると言えます。経済の問題をそれぞれの国の中において運営していた従来の枠組みが通用しなくなったという状況が出ているのです。世界規模における経済のマネジメントをどのようにするのかという大きな問題が生じてきているわけであります。

このシステムの問題が一番典型的に表れているのが社会問題です。伝統的な国際関係においては、社会問題は基本的にそれぞれの国内社会が対応する形で処理されてきました。例えば環境問題です。四日市公害、水俣公害などは日本の社会問題として克服されてきました。しかし、環境汚染の結果、人間の健康に脅威を与えるという同じ問題が、今日では地球温暖化の問題に見られるように、一つの国内社会だけでは解決できない状況になっています。皆が力を合わせてこの問題に対応しない限り問題は克服できません。他方、一つの国でも協力しなければ、この問題の解決は全く不可能になるというジレンマがあります。

こうしていろいろ考えて見ますと、政治面でも経済面でも社会面でも、すべて今までの国際システムの基本になっていた考え方、つまり国際社会というものは、主権国家から成り立っていて、主権国家が

それぞれ自分のことは自分できちっと取り仕切ることによって、世界全体として秩序が維持されるという考え方は最早そのままの形では妥当でないという世の中になっているということがお分りいただけると思います。ということは主権国家というものの意味がなくなったとか、国家というものが存在意義を失ったと申し上げているのではありません。重要な点は、皆が一緒になって、政治問題、経済問題、社会問題に取り組まなければならないのに、国際社会全体としてのコンセンサスを作り上げて、この問題に対応できるというような世界がないことです。新しい国際秩序の仕組みがまだ生まれていない中で、どうやってこの状況を克服していくかが我々に課せられた課題です。

③グローバリゼーション

グローバリゼーション、この言葉が今日では流行語になっております。しかし、グローバリゼーションとはいったい何なのか。一昔前は国際化という言葉が非常に流行りました。今日、その言葉はその輝きを失い、代わってグローバリゼーションと言われるようになった。しかしグローバリゼーションと国際化とは基本的に違うと思うのです。国際化というのは、インター・ナショナル、つまり、ネーションとネーションとの間の関係が緊密化し、相互依存関係が増大していく状況をいうわけであります。それに対して、グローバリゼーションというのは、似ているけれども同じプロセスではないと思います。グローバリゼーションというのはあらゆる現象が主権国家の相互の接触を越えて、社会と社会とが、面と面で直接接触して、1つの社会を作る方向に物事が動き出している現象だと思います。

政治の問題で言えば、一番典型的な例は国際テロであります。ブッシュ大統領はあの9・11事件が起きた時に、「これは21世紀の新しい戦争だ」と言いました。国家を構成している国民の安全に対して直接的に脅威を与えるのが戦争であるとすれば、今起きている状況はまさに戦争そのものだ、という意味で彼が言ったのならば、それは極めて正しい指摘であったと思うのです。このことは、今までの古典的な戦争とは違う形での戦争が出てくるような世の中になったということを意味しているのです。それは、すなわちインターナショナルな関係から生まれてくるのではなくて、グローバルな状況というものが生まれてきていることの結果として出てきていることだと思うのであります。

もっとポジティブな面に目を向けて考えれば、例えば、人権の問題、人道の問題も同じカテゴリーに属する問題であります。国際法における一番重要な原則は主権独立の原則であり、内政不干渉という原則であります。今まで人権というのは、たとえ民主的な政府であろうと、非常に独裁的な政府であろうと、その国が決めればいいことであって、他の国が口出しするのはおかしいという考え方でした。しかし、国際社会全体としての立場から、その取扱いが妥当かどうかということを判断するのが今日のグローバル化した世界というもの一つの基準になってきているのであります。そのことは世界の進歩ということから言えば決して悪いことではありません。しかし、主権国家が持つソブリンティー（sovereignty）というものがグローバル化した世界の共通の価値によって制約を受けるものだということが、世界の一つの規範的な意識になりつつあるということを考えると、グローバリゼーションというのは実は大変厄介な問題であることがお分りいただけると思います。決していいことばかりではないということもお分りいただけると思います。

しかし、社会的なプロセスとしてのグローバリゼーションはある意味では自然なプロセスです。それを止めようとしても止まるものではありません。なぜかというと、基本的にはIT革命によって代表されるような、科学技術の進歩とその結果として生じる、社会の一体化というものが、グローバリゼーションというものを一つの不可避のプロセスとして生み出しているからであります。それはたとえて言うと、18世紀の後半から19世紀の初めにかけてイギリスを中心にして起きた産業革命のプロセスによく似ています。

グローバリゼーションは、科学技術の進歩、特にIT革命の結果として出てきている金融システムの一体化に如実に表れており、人間の移動の自由、サービスの移動の自由、キャピタルの移動の自由ということを通じて起きて来ている、一つの社会的な革命でありますが、社会的なプロセスとしてのグローバリゼーションと、一つの社会的な制度・枠組みとしてのグローバリゼーションとは区別して考えなければなりません。社会的な現象としてのグローバリゼーションは制しようとしてもできるわけがないし、これは自然現象であるのみならず、それ自体とすればマクロ的に見れば極めて歓迎すべきことです。しかしそれをそのまま放っておけば物事が全てうまくいくかというと、決してそうではない。そこで、社会システムとしてグローバリゼーションをどういうふうにコントロールしていくかということが非常に重要になってくるわけです。そのことが21世紀の国際秩序を考える上で、非常に基本的な問題になってきていると同時に、非常に難しい問題になってきているということを申し上げたいのであります。

2　協調的な国際秩序の構築

そこでどうしたらいいのかという問題になります。繰り返しになりますが、最早それぞれ自分の国の中だけでシステムを作っていればいいという世界ではありません。しかし同時に世界政府というものがあって、世界全体を見渡して、世界市民全体の福祉をどういうふうにすれば一番よいかという立場から判断して、そういうシステムを作り上げていくような理想的な世界でもない。その中間で非常に折衷的ではありますが、主要国が、世界全体の福祉を大きくするためにはどうしたらいいのかということを考えるシステムを作っていかなければならないのであります。しかし、これは言うは易し、行なうのは非常に難しいのであります。皆が協力するということは、皆が犠牲を払わなければならないからです。

ユニラテラリズムという考え方があります。しかし、二つのスーパーパワーが対立する状況の中から一つが脱落したことで、一つの国だけが世界を支配する極となって世界の秩序が維持できるような世界がきたことにはなりません。一国になったスーパーパワーは世界全体のことを考えて行動しなければならない責任がそれだけ大きくなっているわけですが、残念なことにスーパーパワーの立場からすれば、自分たちが思うように物事を牛耳られるだろうという誘惑に駆られるわけで、その危険を防ぐためにはどうしたらいいのかという問題が出て来ます。

これに対し、これからは多極世界だという言い方をする人もいますが、私はこれも間違っていると思います。多極化世界というのはパワーの中心が複数存在してそれぞれそのパワーの間のバランスによって安定と秩序を維持する考え方ですが、これがうまくいかないことは19世紀から20世紀のヨーロッパの歴史を見れば明らかです。

21世紀の秩序は、まだ具体的な形もとっていないし、どういう形で出てくるかわかりませんが、我々が避けなければならない誘惑というものは何なのかということははっきりしていると思います。第一は一極中心の秩序というものが生まれてくるわけではない、ということです。第二はその逆で、多極的な秩序によってそのバランス上に秩序を維持しようという誘惑です。第三には、それでは多数主要国が一緒になって力を合わせなければならない時に、自分だけはお御輿を担ぐのに参加しないで、美味しい汁だけを吸おうという誘惑です。この誘惑が実は日本に存在している一番大きな誘惑なのであります。日本にとっての誘惑は、そういう秩序は皆が作ってくれて、自分はその秩序の結果を享受することが出来ればいいという形で、非常に受動的な姿勢をとることです。

21世紀前半あるいは後半までそうかもしれませんが、世界というものは皆が少しずつお互いに犠牲を払うことによって、非常に折衷的であり、非常に能率が悪くて、非常に中途半端な解決ではあるけれども、協調的な秩序というものを一緒になってどう作るかということについて汗を流すということであります。それが具体的に何を意味するのかということについては、例えば地域紛争というものに対応する時の日本の姿勢がどういうものでなければならないのか、ということにも表れてくるわけでありますが、この先は分科会のテーマとしていただきたいと思います。

（文責・編集部）

【特別講演】②

大学の将来と職員のあり方

第5回大学職員セミナーより

御手洗　康

1969年文部省入省、教育助成局長、初等中等教育局長、文部科学省文部科学審議官を経て、2003年1月より文部科学事務次官

大学職員としてあるべき職員像についてお話できるような経歴は私にはございませんが、皆様方が大学の中でのご自身のポジション、職員像をどう描き、具体的な専門職としての力量を高めていくか、ということのヒントとして、私どもが大学と一緒になって進めております大学改革の現状、あるいはこれからの方向性についてお話させていただきたいと思います。

人口の変化と高等教育

今日、大学が置かれている状況の一つに量的な側面が挙げられます。

近代国家として、小中高等学校から大学まで一貫した教育制度が創られて以来、百数十年を経て参りました。戦後、新制大学となってからも50年以上経ちましたが、この間大学の進学状況には大きな変化がありました。

戦後、毎年250万人生まれていたベビー・ブームの子供たちが成長し、昭和41、42年には大学進学率がそれまでの20％以下から40％近い所まで行きました。この時期は日本の社会の変化と、それに対応した学生の教育ニーズの高まりをどう受け止めていくかという時代であったと思います。

その後昭和50年から平成に至るまで安定していた進学率は、平成4年に、第二次ベビー・ブームといわれる子供達の18歳人口が200万人というピークに達した後、今日では、大学進学率が50％の手前まで伸びました。10年かからずに10ポイント上がるという大きな変化があったわけです。これが平成4年以降にはピークを過ぎ、18歳人口は減少期に入り、今年は150万人であります。小中学生の人口を見ますと、大体120万人で、このあたりで留まってくれれば日本社会も安定的に推移するのではないかと思っています。

大きな変革期に直面しているわけで、そこから個々の大学には経営上の困難な問題が様々に生じているのですが、国全体としては人口に対応する国民の高等教育へのニーズの変化をどう見ていくかということが、これからの大学の将来を考える上での大きな課題であります。

教育のあるべき方向―3つの原則

一方、日本の社会は大きく変化しております。臨教審は昭和59年から62年まで3年間に亘って、初等中等教育から高等教育までを含め、日本の教育のあるべき方向として三つの原則を示しました。

一つは個性重視の教育。「画一形式的な平等」という教育の運営では、世界的な競争や水準から置いていかれるのではないか。教育の質や学力の水準を上げていくためには、その基礎となる道徳性、具体的に言えば学習の意欲や熱意、それを具体化する努力が必要ですが、このような心の問題も含めて個性を重視した教育を行うことが大原則であると思います。

二つ目は生涯学習社会への移行です。幼稚園から大学までという学校教育だけではこれからの社会の教育は完結しません。大学卒業後のキャリア・アップ、新たな職業分野へのトレーニング、そして人生80年型の自己実現などを考えると、学校という組織された教育システムだけではなく、退職後の高齢期を含めた学習社会、そして地域を含めた社会教育という日常生活の中での教育機能の再構築が大切です。

三つ目は情報化や国際化という世界的な規模で進行する社会の変化に対応する教育です。この変化に対応する教育システム、そしてそれを実質的に保証する内容・水準が求められます。以上が新しい教育のあるべき方向として指し示されたわけであります。

大学審議会と大学改革の理念

それに基づいて高等教育の分野に大学審議会が置かれ、今日まで様々な大学改革の提言がなされました。それまで文教行政と大学、あるいは教育行政と小中高等学校の現場という二つの対立軸があるかのような風潮があり、行政と大学、行政と学校の現場が一体的に改革を進めていくということが難しかったということは事実だろうと思います。

この大学審議会はまさに大学人が中心になって、これからあるべき大学像を議論し、それに従って各大学がそれぞれ独自の新しい大学を創っていこうじゃないかということで進められましたが、平成13年1月、文部科学省の発足に伴い、国全体の審議会の再編ということで中央教育審議会（中教審）大学分科会と衣替えをしました。しかし、高等教育の分科会の実質は旧大学審と少しも変わっていません。

大学審議会は教育研究の高度化、高等教育の個性化、組織運営の活性化という大学改革の三つの大きな理念を打ち出し、今日様々な改革がなされております。

理念①―教育研究の高度化

教育研究の高度化という点では、高度専門職業人の養成に特化した大学院の修士課程というニーズが出て参り、専門大学院制度を平成11年から発足させました。一橋大学大学院の国際企業戦略研究科、あるいは青山学院大学大学院の国際マネジメント研究科などです。これが昨年の臨時国会で新たに衣替えし、専門職大学院という形で発展していくことになっております。

今日、科学技術創造立国として国際的な経済競争に打ち勝つためにも、科学技術に立脚した新たな産業が必要だということで、産学連携の機運が急速に高まっております。その基礎として世界的に卓越した教育拠点として充実した大学が出来てくる必要があります。例えば重点四分野ということで、現在、ライフ・サイエンス、ナノテクノロジー、環境、ＩＴ情報の分野において国立大学も積極的に重点的な整備を行ってきました。今年度はその資金として180億ほど用意し、それぞれの分野で世界に卓越した研究拠点を30程度作る予定です。今年は50大学、117拠点に配分しました。来年は全ての分野が揃います。

地域の産学連携につきましても、ここ2、3年急速に進歩しました。単に全国的、世界的な規模というだけでなく、地域の大学あるいは研究機関と都道府県や市などが一緒になって研究の成果を地域の産業に結び付けていく、大学の知の活用による地域の活性化、地域貢献を図るという事業も積極的に展開しております。これは旧文部省と科学技術庁が一緒になって、文部科学省になったということで、政策形成能力、遂行能力が広がった証でもあるかと思います。

理念②―高等教育の個性化

教育・研究を含めた高等教育機関の個性化という点では、研究志向型の大学あるいは地域密着型の大学など、それぞれの大学の持っているインフラと、将来への発展の潜在力というものをしっかりと見極めながら、経営戦略を作っていくことが大きな課題でありましょう。

現在97ある四年制国立大学は来年4月1日から統合され、87の独立した国立大学法人として運営されます。大学の管理運営組織も大幅に変わりますし、予算のシステムも変わります。国立大学の職員のあり方も、専門的な能力という点で、今まで国立大学にはなかった新たな能力を持った人材をどう確保し、養成していくか、私立大学に大いに学ぶべき点があろうかと思います。

教育面ではそれぞれの大学に学部・学科のニーズに応じたカリキュラムを編成する自由が与えられました。一方で、知の細分化ということで良いのだろうか、高等教育あるいは科学技術の最先端で活躍する人材は幅広い豊かな教養をきちんと身につけた上で、それぞれの人材養成をすることが大事ではないか、という声も出てきております。カリキュラムの弾力化、個性化は大学の自己評価あるいは第三者評価という動きにつながっていきます。個性化を計るために、大学の設置基準も大幅に弾力化されて参りました。私立大学設置の手続きも大幅に簡素化され、短縮化しております。事前の設置行政のハードルは下げつつ、事後の評価による評価体制を確立し、大学の質的な向上を計ることが大きな課題になっております。

理念③―組織運営の活性化

国立大学はそれぞれ独立した国立大学法人として組織を変え、新しい方針での運営が始まります。最終意思決定をする学長以下役員による「役員会」、そしてそれを支える「教育研究評議会」と、学外者が半数以上入る「経営協議会」が置かれ、予算及び組織運営が大学の自主的な決定で行われるというシステムになろうかと思います。

これからの大学経営

これからの大学運営、経営を考える場合、いくつかの柱が考えられます。まず社会人受け入れの問題、そして地域への貢献、地域との協力という課題を抜きにして大学の経営はうまく行かなくなるでしょう。個性化の中でどこに重点を置くかということによって、具体的なあり方は違ってくると思いますが、これだけ高等教育機関が全国あまねく整理されますと、やはり地域というものに密着した大学ということは大きな意味を持ってくると思います。それぞれの地域における知の最高拠点、教育の最高学府である大学の施設、設備、そして人的なスタッフをどう活用するか、地域とどう連携していくかということは地方の経済、社会、文化の活性化にとっても大きな意味を持つことになるでしょう。

次に留学生の問題があります。留学生10万人受け入れ計画は、ようやくその目的を達成する状況になりました。中国・韓国を中心とするアジアの学生の受け入れは、単に教育の問題だけではなく、日本と中国・韓国・近隣諸国を含むアジア全体の経済の発展と深く結びついてきております。留学生の受け入れのみならず、単位互換あるいは大学の相互進出という、行政的に対応しなければならない課題も出てきております。国際的な質を確保していくということも含め、留学生受け入れの問題はこれからの大学の大きな経営の柱の一つになってくると思います。

次にインターンシップの問題があります。卒業後、学生がどういう分野に進出し、就職をしていくか、これは大学に入学する一つの目的でありますし、国民の大学に対する要請の一番大きな問題であります。大学が教育の観点からこうあらねばならないというだけでは世の中は動きません。企業あるいは経済界がどういう人材を要請するか、リクルートのシステムにどう応えて行くか、学生の就職あるいは進路にどう的確に応えていくか、ということも大学経営の大きな柱になって参ります。

今後は学生の質の保証ということも問題になってくるかと思います。事前の設置認可行政から事後の評価システムということで、大学全体の質を保証するという方向へ転換していくと、教育の質の保障は、まずはとりもなおさず卒業していく学生の質の保障ということに帰着します。学生を指導するためのカリキュラム、指導方法を確立し、厳格な成績評価がなされなければなりません。基礎知識をしっかり身につけた上で、自らの課題を見つけ、自ら問題を解決する能力を培う―課題解決能力ということですが、前述の専門的な能力と幅広い教養とのバランスと相俟って重要な問題です。

また、大学の入り口の問題、入学試験の問題も大きな課題となります。18歳人口が減少する中で、定員の確保にも大きな努力をされていると思いますが、中期的あるいは長期的ビジョンから考えれば、学生にどういう資質を要求し、大学はその資質をどう伸ばして、社会に送り出していくかといった観点から入学の問題、卒業の問題を考えていくということが大学経営上欠かせないポイントだろうと思います。

それぞれの大学が個性化され、どういう人材を、どういう分野に、どういう水準で育てていくかということが決まって初めて、高等学校以下の子供達にどれだけの資質を求めたい、ということが明確にアナウンスできるだろうと思います。そして大学で何を学ぶのか、あるいは何を学びたいと思っているのか、といったメッセージを大学が発していくということが、初等中等教育も含めた教育界全体にとって必要な人材を日本国全体で創っていくということを考えた時に、非常に大きな、決定的なポイントになると思います。

大学職員に専門性が必要

数年前、一ヶ月ほどアメリカを回り、アドミッション・オフィスを中心とする入試のシステム、インターンシップを含めた就職のシステム、財政面に関わる経営のシステムという三点に絞って、アメリカの大学の考え方、動きというものをみて参りました。

アドミッション・オフィスというのは日本の今までの入試のシステムとは全く違ったシステムであります。ここには学生を選考する専門職の事務スタッフがおります。就職の分野でも然りで、大学経営に関わるそれぞれの分野で専門的な能力を持ってアメリカ社会の中でキャリアアップをしていくといった思考が、教官のみならず事務職員の中にも明確に働いておりました。教官の流動性といい、一般社会の職業分野での流動性といい、アメリカ社会には一つのシステムがあって、うまく機能していると思います。そのようなシステムがないところでは、アメリカの例がそのまま適用できるとは思いません。なによりまず専門職という概念が無ければキャリアアップしながらの流動性ということは無いと思います。

例えば大学病院の場合、正に企業として経営のあり方が問われていますが、そのためには専門的な医師、看護婦あるいは医療技術者という方々のほかに、病院経営に携わる事務部門は大変重要な部門であり、職員は専門性を必要とするものと思われます。

これからの大学の職員のあり方ということを考えた場合に、個々の大学がそれぞれの個性、規模、分野、地域性、あるいはそこで行う教育・研究の質のレベル、こういったものをしっかりと見極めた上で、発展していくための戦略性、方向性というものを考えなければなりません。

それに応じて、それを支える事務系あるいは経営系のスタッフには多くの点で専門性が必要になってきますし、その専門性を高めていく職員のトレーニングが大事であると考えておりますので、皆様方におかれましてもどうかよろしくお願い致します。(文責・編集部)

開館20周年記念館新装オープン

全室の内装を新たにし、宿泊室にユニット・バスを設置しました。より快適にお泊まりいただけます。

一九八九年に落成して以来、14年が経過した開館20周年記念館。ユニット・バスの増設、全室の内装、A棟とB棟の通路に屋根を設置するなど、今回はじめて大規模修繕を実施しました。シャワー・バス・トイレ付の部屋が13室となりましたので、学生はもちろんのこと、教職員・企業社会人の方に、より快適な施設となりました。これを機会に、一層のご利用をお願いいたします。宿泊料金は、ツインでお一人様四、四〇〇円（会員校学生・教職員）、四、七〇〇（非会員校・社会人）。シングルでのご利用は、一、〇〇〇円増となります。

開館20周年記念館入口

事業の概要は次のとおり。〈総事業費〉二〇、三七〇、〇〇〇円（日本財団助成金一〇、〇〇〇、〇〇〇円）。〈事業内容〉屋根全面修繕及び防水改修、新規通路屋根設置（A棟―B棟間）、雨樋修繕、排水溝修繕、新規階段踊り場雨除け設置、トップライトガラス交換、全室内装、ユニット・バス設置（8室）、暖房ファンコイル及びフィンの薬品洗浄など。

より快適な居室となりましたので、教職員、社会人の方にはお勧めです。

平成14年度第3回常務理事会
平成14年11月1日／アイビーホール

【出席者】中嶋嶺雄（理事長・館長）、本江哲郎（専務理事）、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、（陪席）三宅彰

【主な議事】募金状況、利用実績および予約状況、主催セミナー事業、上半期の予算執行状況、寄付行為の改定、食堂直営問題、施設改修他。

平成14年度第4回常務理事会
平成15年2月1日／大学セミナー・ハウス

【出席者】中嶋嶺雄（理事長・館長）、本江哲郎（専務理事）、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、鈴木康司、村上陽一郎、（陪席）三宅彰

【主な議事】募金状況、第3-四半期までの利用実績および予約状況、主催セミナー実施報告、第3-四半期までの予算執行状況、平成15年度予算編成方針、記念館大規模修繕計画、道路問題、食堂直営問題、平成15年度主催セミナー事業計画、就業規則及び退職金規定一部変更、医療法人光智会の提案、他。

平成14年度第5回常務理事会
平成15年3月29日／アイビーホール

【出席者】中嶋嶺雄（理事長・館長）、本江哲郎（専務理事）、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、鈴木康司、村上陽一郎、（陪席）三宅彰

【主な議事】利用実績および予約状況、食堂収支計画、医療法人光智会の提案、第104回理事会・第83回評議員会の議題、他。

第104回理事会・第83回評議員会
平成15年3月29日／アイビーホール

【出席者】（理事）中嶋嶺雄、本江哲郎、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、鈴木康司、村上陽一郎、大宅映子、富岡賢治、西原正、（監事）志村尚子、（評議員）井早康正、宇佐美滋、川原栄峰、三宅彰、秋山正幸、中兼和津次、松本浩之、柳井道夫

【委任状及び書面表決による出席】理事12名、監事1名、評議員44名

各議案について逐次提案説明があり、それぞれ審議の結果、いずれも原案どおり承認された。主な報告・協議は次のとおり。

▼募金活動について

平成15年3月28日現在で募金総額は二〇、五四三、五二三円。募集期間は本年3月31日で切れるが、免税措置の2年延長を申請している。中嶋理事長より、40周年というだけでは募金を募ることが難しい経済情勢にあり、今後は留学生のための宿泊施設（国際交流館）など企業にアッピールする事業計画を検討したいとの発言があった。

▼主催セミナー事業について

①セミナーの種類・目的を整理し、企画委員会の規約・運営方法等を抜本的に見直した。②セミナー事業の収支状況を明らかにした。③セミナーの講演部分を市民に公開するなど積極的に地域との連携を図った。報告に関連して、①魅力のあるテーマなので新聞社・企業等の協賛が得られるのではないか、②講師は教員だけでなく広範な人材を参画させてはどうか、③「大学共同セミナー」については名称を変更するなど検討の必要があるのではないかとの意見があった。

▼開館20周年記念館修繕工事について

緊急に雨漏りの補修工事が必要となったため、日本財団の助成制度を利用し、大規模修繕工事を行ったとの報告があった。

▼役員人事について

協力会員校の学長交替に伴う早稲田大学総長白井克彦氏の新任（任期は平成16年5月31日まで）と奥島孝康氏の退任が承認された。

▼評議員人事について

協力会員校の学長交替に伴う中央大学学長・角田邦重、帝京大学学長・冲永佳史の両氏の新任と冲永荘一氏の退任、及び協力会員校の加入に伴う東洋大学学長・神田道子氏の新任が承認された。いずれも任期は、平成15年4月1日から平成16年5月31日まで。

▼平成15年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について

事業計画（案）・収支予算（案）とも原案どおり承認された。収支予算については別掲のとおりである。なお、会員校会費（前年に引き続き国立大学の会費を一律10万円増額）、利用料金等ともに据え置きとし、利用者延人数は二五、四七〇人を見込んだ。また、食堂を直営化し、食事の改善に努めることになった。

▼特別会計収支予算（案）について
別掲のとおり承認された。

▼会員の入会について
東洋大学（神田道子学長、東京都文京区白山5-28-20）の協力会員校加入が承認された。

平成15年度第1回常務理事会
平成15年5月23日／アイビーホール

【出席者】中嶋嶺雄（理事長・館長）、本江哲郎（専務理事）、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、鈴木康司、（陪席）三宅彰

【主な議事】募金状況、予約状況、主催セミナー事業、食堂業務の実績報告、売店企画書、役員人事、遠隔地大学の協力会員校入会、留学生宿舎建設計画（案）他。

第105回理事会・第84回評議会
平成15年5月23日／アイビーホール

【出席者】中嶋嶺雄、本江哲郎、宇野重昭、荻上紘一、佐藤保、鈴木康司、後藤祥子、（監事）志村尚子、宮田清藏、（評議員）秋山正幸、川原栄峰、三宅彰

【委任状及び書面表決による出席】理事17名、評議員45名

各議案について逐次提案説明があり、それぞれ審議の結果、いずれも原案どおり承認された。主な報告、協議事項は次のとおり。

▼募金活動について
募金活動を再開するための特定公益増進法人の許可が得られることになった。

▼評議員人事について
協力会員校の学長交替に伴う横浜国立大学学長・飯田嘉宏氏の新任と板垣浩氏の退任、工学院大学学長・三浦宏文氏の新任と大橋秀雄氏の退任、女子美術大学学長・立石雅夫氏の新任と小松弘光氏の退任、東洋英和女学院大学学長・船本弘毅氏の新任と塚本哲也氏の退任、東京薬科大学学長・大澤利昭氏の新任と森陽氏の退任及び東京都立大学総長・茂木俊彦氏の新任が承認された。いずれも任期は、平成15年6月1日から平成16年5月31日まで。

▼平成14年度事業報告書・同収支決算書・特別会計（記念募金）決算書について。
一般会計・特別会計の収支は別掲のとおり。

▼早稲田大学芸術学校の準協力会員校の入会が承認された。

▼就業規則の一部を改正する規則の承認。

▼留学生宿舎建設計画については審議の結果、公的助成を前提とする旨の意見があった。

▼役員人事について
新日本製鉄㈱副社長・大橋徹郎氏が平成15年3月31日付で辞任された。

寄贈図書（平成14年10月～平成15年6月）

『愛のかたみ』　大同生命国際文化基金殿
『「新しい戦争」時代の安全保障』　外務省国内交流課殿
『記録・若き日の山―外語山岳部の50年』　東京外国語大学山岳会殿
『学習院大学自己点検・自己評価報告書』本文編、データ編、研究者一覧編　学習院大学殿
『工学院大学研究報告第93号』『工学院大学共通課程研究論叢台40-1号』　工学院大学殿
『セルフアサーショントレーニング』　菅沼憲治殿
『学校が元気になる』　坂上達夫殿
『澤山保羅―現代日本のポウロ』日本女子大学創立百周年記念　新井　明殿
『津田塾大学100年史』　津田塾大学殿
『歴史と未来』　中嶋嶺雄殿
『信州大学山岳科学総合研究所年報』　高石道明殿
『レダン山のお姫様』　大同生命国際文化基金殿
『日本義肢協会誌』　日本義肢協会殿
『Tokyo Tech Now 02』　東京工業大学殿

◀平成14年度収支計算書総括表（平成14年4月1日～平成15年3月31日）単位：円

科　目	合　計	一般会計	特別会計
Ⅰ収入の部			
基本財産利息収入	6,267	6,267	
会費収入	60,300,000	60,300,000	
事業収入	102,730,624	102,730,624	
施設改修協力金収入	0	0	
セミナー会費収入	4,007,339	4,007,339	
補助金等収入	11,100,500	11,100,500	
寄付金収入	13,381,023	2,089,500	11,291,523
雑収入	5,761,432	5,761,170	262
減価償却積立金取崩収入	17,000,000	17,000,000	
当期収入合計	214,287,185	202,995,400	11,291,785
前期繰越収支差額	27,587,512	17,490,229	10,097,283
収入合計	241,874,697	220,485,629	21,389,068
Ⅱ支出の部			
管理費	61,910,929	61,876,111	34,818
人件費	31,268,242	31,268,242	0
施設管理費	23,760,463	23,760,463	0
一般管理費	6,882,224	6,847,406	34,818
事業費	92,120,079	92,120,079	0
人件費	31,648,947	31,648,947	0
一般事業費	57,366,431	57,366,431	0
普通セミナー事業費	0	0	0
学生指導セミナー事業費	1,749,166	1,749,166	0
国際学生セミナー事業費	1,355,535	1,355,535	0
固定資産取得支出	21,602,400	21,602,400	0
特定預金支出	43,000,000	23,000,000	20,000,000
その他の支出	0	0	0
予備費		0	0
当期支出合計	218,633,408	198,598,590	20,034,818
当期収支差額	-4,346,223	4,396,810	-8,743,033
次期繰越収支差額	23,241,289	21,887,039	1,354,250

◀平成15年度収支予算書総括表（平成15年4月1日～平成16年3月31日）単位：円

科　目	合　計	一般会計	特別会計 40周年記念募金	
Ⅰ収入の部				
基本財産利息収入	5,000	5,000		
会費収入	58,350,000	58,350,000		
一般事業収入	90,225,000	90,225,000		
食堂事業収入	67,300,000	67,300,000		新規事業
セミナー会費収入	5,343,000	5,343,000		
補助金等収入	0	0		
寄付金収入	7,200,000	2,200,000	5,000,000	
雑収入	4,148,000	4,148,000		
当期収入合計	232,571,000	227,571,000	5,000,000	
前期繰越収支差額	27,200,000	7,200,000	20,000,000	
収入合計	259,771,000	234,771,000	25,000,000	
Ⅱ支出の部				
管理費	59,243,000	59,243,000	60,000	
人件費	31,847,000	31,847,000		
施設管理費	20,925,000	20,925,000		
一般管理費	6,471,000	6,471,000		
一般事業費	99,944,000	99,944,000		
人件費	37,663,000	37,663,000		
一般事業費	57,047,000	57,047,000		
大学学生セミナー事業費	1,994,000	1,994,000		
大学教職員セミナー事業費	3,240,000	3,240,000		
その他のセミナー事業費	0	0		
食堂事業費	60,627,000	60,627,000		新規事業
食堂事業直接費	29,000,000	29,000,000		
人件費	21,200,000	21,200,000		
食堂事業間接費	10,427,000	10,427,000		
固定資産取得支出	4,570,000	4,570,000		
特定預金支出	1,000,000	1,000,000		
予備費	1,050,000	1,000,000	50,000	
当期支出合計	226,494,000	226,384,000	110,000	
当期収支差額	6,077,000	1,187,000	4,890,000	
次期繰越収支差額	33,277,000	8,387,000	24,890,000	

■第39回大学教員セミナー　2002年7月6日(土)～7日(日)

テーマ	＊講師**委員	参加人数・校数
大競争時代における大学教員の生き方 【基調講演】大学教師―その専門性と責務 ＊寺崎昌男（桜美林大学大学院国際学研究科教授） 【提題】 1. 女子大学における理系人材の育成 ―現状と展望 2. カリキュラム改革への試み ―学生を満足させ、且つ教員の能力を最大限活かすための 3. 大競争時代の大学 ―大学を取り巻く競争的環境	＊小舘香椎子（日本女子大学理学部教授） ＊斉藤恵子（大妻女子大学比較文化学部教授） ＊高橋真義（桜美林大学学長補佐） **山本眞一（筑波大学大学研究センター教授） **北原和夫（国際基督教大学教養学部教授） **西川孝夫（東京都立大学工学部教授） **秀島武敏（千葉大学理学部助教授） **福田　喬（電気通信大学電気通信学部教授） **安田忠郎（武蔵工業大学工学部教授） **山本　和（国際基督教大学教養学部教授） **吉田　文（メディア教育開発センター教授）	参加者　75名51校 (講師・委員を含む)

■第29回国際学生セミナー　2002年12月13日(金)～15日(日)

テーマ	＊講師**委員	参加人数・校数
グローバル化する地域紛争 【セクション演習】 1. 核対立とインド・パキスタンのカシュミール紛争 2. 中央アジア情勢とエネルギー紛争 3. パレスチナ紛争とテロ 4. 両岸関係と東アジアの平和 5. アメリカのリーダーシップ	＊広瀬崇子（大東文化大学国際関係学部教授） ＊堀本武功（国立国会図書館調査及び立法考査局長） ＊清水　学（宇都宮大学国際学部教授） ＊湯浅　剛（防衛庁防衛研究所第2研究部研究員） ＊池田明史（東洋英和女学院大学国際社会学部教授） ＊平山健太郎（元ＮＨＫ解説委員） ＊天児　慧（早稲田大学大学院ｱｼﾞｱ太平洋研究科教授） ＊若林正丈（東京大学大学院総合文化研究科教授） ＊/**滝田賢治（中央大学法学部教授） ＊/**石井　修（明治学院大学法学部教授） **宇佐美　滋（日本大学国際関係学部教授） **中兼和津次（東京大学大学院経済学研究科教授）	参加者　90名 講師・委員　13名
【特別講演】「21世紀の世界と国際秩序」 ＊小和田　恆　(財)日本国際問題研究所理事長		一部参加　123名 総計　226名 29校

■第5回大学職員セミナー　2003年1月24日(金)～25日(土)

テーマ	＊講師**委員	参加人数・校数
大学危機回避 ―モラールとミッションの再構築 【主張】 モラールからミッションへ 【提言】 今、職員に何ができるのか―企業人の視点からのアドバイス 【分科会】 1. 建学の理念とミッション 2. 教学支援システムの確立 3. SDとFDの連携	＊寺崎昌男（桜美林大学大学院国際学研究科教授） ＊丹内明良（海外新聞普及株式会社取締役） **佐藤東洋士（桜美林大学学長） **佐藤善志（学習院総務部参事） **高橋真義（桜美林大学学長補佐） **佐々木勝洋（上智短期大学事務部部長） **藤波ゆり枝（中央大学総合政策学部事務室担当課長） **古矢鉄矢（北里大学事務本部学事部部長）	参加者　78名 (講師・委員を含む)
【特別講演】「大学の将来と職員のあり方」 ＊御手洗　康（文部科学省文部科学事務次官）		一部参加　65名 総計　143名 62校

■第188回大学共同セミナー　2003年3月8日(土)～9日(日)

テーマ	＊講師**委員	参加人数・校数
キャリアと自己実現 【基調講演】「課外活動ようこそ先輩」の開発に携わって ＊坂上達夫（ＮＨＫ教育番組部チーフ・プロデューサー） 【分科会】 1. ロースクールと法律家の役割 2. マスメディアの現場から 3. 創作現場の現状と実像 4. 国際協力へのチャレンジ	＊上野　格（弁護士） ＊椛嶋裕之（弁護士） ＊小池振一郎（弁護士） ＊仲築間卓蔵（元日本テレビプロデューサー） ＊唐木　厚（講談社文芸図書第三出版部部長） ＊金子洋三（青年海外協力隊事務局長） **北原和夫（国際基督教大学教養学部教授） **中嶋幹起（大東文化大学外国語学部教授） **川人　博（弁護士、東京大学教養学部ゼミ講師） **篠田節子（作家）	参加者　36名 講師委員　11名 一部参加　8名 総計　55名 15校

注：（　）肩書は当時

主催セミナーアルバムから

中嶋嶺雄理事長・館長の挨拶

特別講演

「21世紀の世界と国際秩序」小和田恆先生

「大学の将来と職員のあり方」御手洗康事務次官

「大学危機回避、大学の改革」を語る教員・職員たち

自己表現トレーニング

大学教員セミナー基調講演　寺崎昌男先生

中嶋理事長と御手洗事務次官

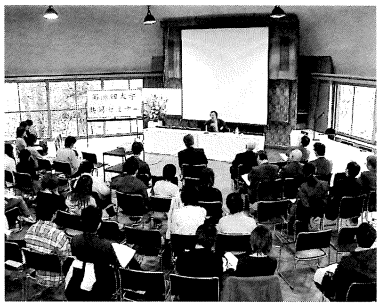
大学職員セミナー「提言」丹内明良氏

大学教員セミナー「提題」：左から斉藤恵子先生・小舘香椎子先生・高橋真義先生

「キャリアと自己実現」を先輩たちと語る

上野格弁護士と椛嶋裕之弁護士

篠田節子先生と川人博先生



「地域紛争と21世紀の国際秩序」を熱論

天児慧先生と池田明史先生

清水学先生と堀本武功先生

中嶋幹起先生と北原和夫先生

若林正丈先生と中兼和津次先生

小和田先生と学生たち

モーニングツアー

会費ありがとうございました

（H14年10月～H15年6月　敬称略）

村田光二、関口利男、神田信夫、東壽太郎、関本昌秀、末松安晴、田村献、松田千鶴子、小林善彦、平野敬一、栗林恒雄、板垣與一、川原栄峰、木畑洋一、荒川幾男、堀光男、松岡八郎、今井淳、酢屋善元、井関利明、田端光美、高橋三郎、小田滋、宇野重昭、宮野彬、米満澄、青柳清孝、篠崎啓助、安達義明、福田隆義、斎藤信房、清水護、久留都茂子、牧内操、新田悟、末永國明、江尻美穂子、祖父江孝男、赤木愛和、熊川忠、平澤茂一、伊藤玄三、外間寛、森川八洲男、山下幸夫、田島澄江、前川真理、横山実、梶木隆一、伊藤修、八木江里、八杉貞雄、鈴木順子、外池孝雄、田村光三、小川信子、小林澈郎、戸張よし子、小松八郎、栗田寛、田村皖司、近藤保、森田信義、城謙輔、篠木昭夫、飯野利夫、杉山吉茂、福井憲彦、戸田二三冬、竹内啓一、生山智已、青木生子、池田温、山田晫、慶伊富長、吉田豊、横沼健雄、清水誠、堀井啓幸、山科高康、澤孝一郎、塚本利明、松尾章一、金台烋、三浦安子、小谷正博、松本幸一、平木典子、尾田幸雄、濱川祥枝、森久、鈴木俊和、川端香男里、山田圭一、青柳総太郎、上田明子、宮川俊彦、田中國昭、平野健一郎、小菅敏夫、一番ケ瀬康子、斎藤耕二、松澤正夫、吉田光孝、鈴木皇、中富光國、石田孝夫、江幡玲子、光延明洋、渡辺忠胤、大森東亜、中川秀恭、高橋恒郎、武田昌輔、鴇田忠彦、大東百合子、乾崇夫、松山正男、新井明、天野成光、小野寺嘉孝、西川大二郎、柳沢冨雄、竹林代嘉、高橋昭三、柳下登、北村嘉行、川崎正三、坂本光一、佐藤音彦、北原文雄、根岸愛子、手塚千鶴子、海老沢信一、上谷琢之、小山弘志、大川信明、村上健、柳父圀近、山住正己、小俣武夫、池井優、金子ハルオ、松田安弘、本田和子、秋間実、山口俊夫、新保清子、石川道夫、富沢賢治、石井素介、板垣雄三、伊藤清子、佐藤光、寺東寛治、藤井良治、慶谷壽信、茅野良男、森昭彦、箕輪成男、福永壽已夫、小林一彦、中村妙子、馬越徹、肥前栄一、笠耐、杉浦銀治、西川恭治、磯直道、高橋静枝、富塚文太郎、河田喬夫、柘植敏治、志村尚子、人見宏、蓮見音彦、一松信、中田良平、井村君江、絹川正吉、有山正孝、島田治夫、山澤逸平、島美喜子、高松正昭、小幡史朗、白川和雄、井原恵治、小原啓義、大西清、柴田泰比古、広内哲夫、勝見允行、市川邦彦、福田一郎、五十嵐香、森山ヨシ子、小倉芳彦、高瀬文志郎、向坊隆、福西基、春田素夫、池原義郎、木田宏、尾田綾子、小林哲也、桧田信男、鈴木三男吉、羽方純、手塚喬介、柳堀素雅子、室本誠二、土井恵美子、佐藤玉枝、藤井弥太郎、小原孝一郎、田中喜久昭、佐藤公孝、佐藤慶幸、石弘光、水野弘文、関口富左、大河内正陽、土井二郎、佐藤和男、井上繁、水谷眞智子、岡村総吾、山之内靖、奥島孝康、井上宇市、海老根宏、清永昭次、林肇、川村龍俊、野澤晨、向山文雄、下森定、橋口英俊、伊倉退蔵、比留間敦子、牧内勝、後藤捨男、柏原啓一、石堂常世、加藤晴久、大村晴雄、本明寛、滝口俊子、村田和己、冨山芳正、江渕浩美、芳賀徹、児玉昭太郎、荒井献、壽里茂、荒井基、澤島侑子、徳座晃子、奥山典生、麻生幸、吉利喜美、千野熊男、長岩寛、荒川有史、瀬戸岡紘、徳永勇雄、福島明、逸見謙三、中嶋嶺雄、朝野洋一、徳末愛子、宮川彰、鈴木二郎、島田淳子、村瀬旻、黒田成俊、今堀和友、出光直樹、西澤宗英、川添利幸、佐藤進、本江哲郎、古田和孝、二谷貞夫、天城勲、保坂純子、大和政彦、見田宗介、原一雄、阿久津喜弘、中山勝博、大内力、小倉充夫、椿弘次、竹内喜代司、塩谷惇子、吉田幸弘、山田耕司、栗林恒雄、合田周平、金子晃、中野スミ子、中村幸安、常行敏夫、安宅光雄、臼井久和、松尾浩也

会員からのメッセージ

★〇二年度分会費B五千円、記念募金追加五万円。私事、高年齢のため、今回限りにて、千人会を退会致します。永い間、有難う御座居ました。　田村献

★大変遅くなり申訳ありません。小生昨年古稀を迎え、昨年十月に胃癌の手術をいたしましたが、早や一年を迎え、順調に回復しており、社会奉仕活動に微力を尽くしております。　栗林恒雄

★誕生日をお祝いいただきありがとうございました。厚く御礼申上げます。おかげさまにて無事七八歳となりましたが、相変わらず好きな学問に日を過ごしております。現代は内外とも混迷しており、大学セミナー・ハウスのお仕事も大変かと存じます。くれぐれもご自愛の上一層のご活躍を期待申上げております。　松岡八郎

★大学セミナー・ハウスの精神の継続と時代に対応した発展を祈っています。　宇野重昭

★セミナー・ハウスの事業の一層のご成功を祈ります。　斎藤信房

★満八十歳の誕生日をやっと迎えました。セミナー・ハウスのご繁栄をお祈りします。　末永國明

★狭心症で節酒禁煙に努め、ようやく心臓の方は安心の域になりましたが、老眼、歯周炎等はまだ煩わしい状態です。貴センターの御発展を祈ります。　赤木愛和

★誕生日のお祝いの言葉をいただき、ありがとうございました。誕生日のこの日、千人会の会費を郵便局に振り込みに行くことから新たな一日を始めさせていただこうと思います。　熊川忠

★久方ぶりに十月二十六日にゼミ合宿に利用させていただきました。ハウスの樹々の繁りを感じました。　伊藤玄三

★十月には木々の美しいカードをありがとうございました。貴ハウスのますますのご発展を祈ります。　前川真理

★どうにか無事に九二回目の誕生日を迎えました。セミナー・ハウスの発展を祈ります。　梶木隆一

★大学を卒業して三十五年が過ぎ、企業人としての人生も間もなく卒業を迎えることになります。それからが社会人としての真価を問われるのだと思います。果たしてその責任を果していけるのかどうか。大学セミナーハウスで学んだ若き日の情熱を今一度よみがえらせて熱くしていきたいと思います。　伊藤修

★今年三月末に定年となり、八木江里科学研究所（NPO学術ネットへ所属）を作りました。　八木江里

★本年は格別な思いで、誕生日を迎えました。遅くなりましたことを心からお詫び申上げます。　鈴木順子

★只今は本務校が札幌なので、中々おうかがい出来ません。色々と変化したのでしょう。皆様によろしくお伝えくださいます様。　小川信子

★美しい秋の雑木林の誕生日カード有難うございました。三月末で二度目の定年となり、週一日だけ成蹊大学のお手伝いをしております。『好学心、それは賢明なるまた良い教養を持った人々にとっては年齢と相並んで増進するものだ』という古人の言葉にあやかりたいものと思います。　小林澈郎

★今年も会費をお送り出来ますことを感謝しています。　小松八郎

★益々のご発展をお祈り致します。　森田信義

★みなさまのご健勝をお祈りいたします。　戸田二三冬

★一九六六年夏、正式開館の前に利用させていただいて以来何回も利用し、千人会にもはじめから参加してきましたが、七〇歳を迎えましたのでこれで退会させていただきます。　竹内啓一

★長沢美津氏の歌「いくつになりても新しく究めたきことのありて心ときめく」のように、「心ときめく」人生を歩んでゆきたいものと思っております。会費をお送りできる感謝をこめて。　青木生子

★誕生日のカードをありがとうございます。おかげさまで本日、無事八二歳になりました。セミナー・ハウスのご発展を祈り上げます。些少ですが会費をお送り致します。　慶伊富長

★久しく足も遠のいています。恐ろしい時代の到来を予感し、危惧しながら、余生を過ごしています。この辺りで会を辞したいと思います。どうぞよろしく。　清水誠

★四六歳になりました。初めて教授の学習会でセミナー・ハウスを利用させていただいたのは二十代の時と思いますので、ずいぶん時がたったなあと思います。来月は、SD研修で、お世話になります。遠く離れても、そして年を重ねても、新しい課題はつきず、挑戦することで若返って？！いかなければいけないですね。パースデーカードありがとうございました。　富山大学堀井啓幸

★誕生日カードをお贈りいただき、忝けなく存じます。少額の会費をお送りいたします。益々のご発展を祈念いたします。お礼がおそくなっ

て失礼申上げました。　松尾章一

★貴ハウスのご隆昌を念じ上げます。　金台烋

★美しい公孫樹の誕生日カードをお送り下さいましてありがとう存じました。今、新入生教育に力を注いでおります。教養教育をどういう手段で学生に伝えたらよいかを、毎日探りもとめております。　三浦安子

★バースデー・カード有難うございました。お陰様で何とか満七九歳になることが出来ました。もちろん老化に否みがたく、あと幾年もつことやらと、自問しつつ日を送っております。　濱川祥枝

★二〇〇三年大学セミナー・ハウスのますますの御発展を！　上田明子

★美しい山茶花の写真のカードをありがとうございました。　斎藤耕一

★あけましておめでとう。今年は異常な世相や天候が羊のように、おだやかになることを望みます。ハウスの発展を願いつつ。　鈴木皇

★元気でおります。八三歳になり、「余生」ということを考えるようになりました。　北原文雄

★山梨学院大学も新入生を迎える準備で日々おわれる毎日ですが、セミナー・ハウスも同様かと存じます。学生の声がこだまするキャンパスは、やはり最高です。　海老沢信一

★会費をお送りする度毎に三井銀行の支店の一室で設立準備をしておられる飯田先生を思い出します。私も八六歳になりました。大学セミナー・ハウスの隆盛をお祈り申上げます。　上谷琢之

★カードをありがとうございました。よろしくお願い致します。　柳父圀近

★大学改革の時代における貴ハウスの益々の御発展をお祈りいたします。　松田安弘

★美しい初雪模様、楽しく拝見しました。ありがとうございます。　本田和子

★お陰様で元気に七五歳の誕生日を迎えることができました。相変らずしこしこと翻訳などをしております。さて、じつは、昨年、この払込票を紛失するという珍事が生じ、ご送金しそびれてしまいました。（銀行口座利用という手もあったのですが、怠けました）。そこで、本年、二年分をお送りします。　秋間実

★装を新しくしたセミナー・ハウスにまた是非うかがいたいものです。　佐藤光

★貴会の御発展を祈念いたします。　慶谷壽信

★きな臭い戦争前夜の空気が漂っています。平和を願う世界の若い人たちの知的交流の場としての貴会の役割に期待しています。　森昭彦

★志四年目でホスピスの仕事につきます。いつか大学セミナー・ハウスでスピリチュア・ケア等のテーマで勉強する場をもっていただければと思っています。　小林一彦

★「炭焼き」で飯田先生時代からお世話になっています。環境問題で生きたセミナー・ハウスです。世界のために役割を果してください。　杉浦銀治

★本年三月にて、ペンションライフに入りますので、C会員にさせていただきます。河田喬夫

★誕生日をお祝い下さいまして有難うございます。最低ランクで申し訳ありません。建設資金も募金中でしたね。領収書は不要です。（コストの手間の削除です）　島田治夫

★六八歳を期し、故郷に新しい教会づくりの挑戦です。よい所です。おいでください。　小幡史朗

★素晴らしいお祝いカードを有難うございました。お蔭様で無事七五歳を迎えることができました。現在、訴えの利益、訴訟制度の目的の他に、日本における神・仏（宗教）の問題について考えております。　白川和雄

★誕生日に当りお祝いの言葉を頂きありがとうございます。ハウスの益々の御発展を祈ります。八二歳となりましたので引退致すことにしました。　市川邦彦

★今年も元気に誕生日を迎え、千人会費を納めることができ、感謝しています。　福田一郎

★向坊隆は平成十四年七月他界致しました。お世話様になり有難うございました。最後に上記の通りお送りさせて頂きます。　向坊信

★創立者飯田宗一郎氏の中学の同窓で共にキリスト友会員でありながら彼が独自の神の啓示により、創立されたセミナー・ハウスに豊かな恵みのありますことをお祈りいたします。小生もどうやら教育界に七三年の奉仕ができて、感謝です。　福西基

★平成十六年三月三十日定年となりますので、有終の美を飾るべく、教育と研究に専念する所存です。　室本誠二

★一寸緊張して、でもよろこびの大きかった大学セミナー・ハウスでの毎年の研究会。手入れのゆきとどいた小道の小さな花々、そして食堂のおいしい、たのしい食事等々、なつかしく思い出しております。　佐藤玉枝

★定年を迎え、天下晴れて自由な浪々の身になりました。スローライフで行きたいと思います。　佐藤慶幸

★学生を指導する機会がなくなり、セミナー・ハウスともすっかりご無沙汰になってしまいました。淋しくなりましたね。　石弘光

★九一才を迎えました。目下肺ガンの療養中です。　井上繁

★私も七十歳になりました。これをもって千人会員を退会いたしたく存じます。よろしく会員から削除して下さるよう、お願いします。　山之内靖

★しだれ桜の美しいバースデイカードをお送りくださいまして、ありがとうございます。四月二十三日に七六才になりました。大学セミナー・ハウスのますますのご発展をお祈り申あげます。　清永昭次

★実は昨年度はミスしてお送りできませんでしたので二〇〇二年度分会費を追加致します。　野澤晨

★大変ごぶさたしております。いつもステキなお心のこもったお葉書いただきながら失礼し実に申しわけございません。ご発展心から念じております。　橋口英俊

★無事といいたいところですが風邪をこじらせ病床で記しています。十日ほどで直る予定です。　伊倉退蔵

★大学における学生支援政策の、大学間シンポジウムを貴ハウスで企画してください。現在、早稲田大学にて学生部の仕事に関与しています。　石堂常世

★若くして逝った友人を偲んで弘前に行きました。弘前の桜を賞でし友ありき。　児島昭太郎

★いつも誕生日前に美しいカードをお送り下さいまして有難うございます。励まされて居ります。　荒井基

★きんらんのすがすがしいカードをありがとうございました。今年も何とか健康で誕生日を迎えることが出来ました。感謝の気持ちをこめて、セミナー・ハウスの益々の発展を祈りつつ、小額ですが、送らせていただきます。　澤島侑子

★美しい誕生日祝いのハガキ有難うございました。何とか元気で七三歳を迎えることが出来ました。　長岩寛

★八月文教研全国集会でまたお世話になります。ことしの集会テーマは、「太宰治とケストナーにみる戦争の現実―現代市民社会と文学Ⅲ」。　荒川有史

★誕生祝のカード有難う存じました。　逸見謙三

★三月末にて学習院大学を定年退職いたしました。　黒田成俊

★千人会費二〇〇三年度分支払いいたします。満七八歳を祝っていただき、感謝いたしています。　佐藤進

★誕生カードを有難うございました。大学セミナー・ハウスの益々の充実・ご発展を祈ります。私こと七二歳となりましたが、年齢相応には元気で、まだ帝京大学教授を続けております。　古田和孝

★大学改革、法人化、大学評価など大学人をとりまく情勢はきびしく、一人一人のあり方も変化しつつあります。　二谷貞夫

★きれいな誕生日のカードを有難うございました。何とか七七歳の誕生日をむかえる事ができました。喜寿です。　吉田幸弘

★病院の代用職員を三月退職後、市の社会福祉協議会の講習を受講し、ホームヘルパー二級資格を取得しました。病院では資格が大事なのだと痛感いたしました。　山田耕司

★早や七三歳（満）を迎えることができました。貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。　栗林恒雄

★今年もカードをありがたくいただきました。おかげさまで三月に退院、歩行と言語のリハビリ中です。そちらはいま、アザミ・カンゾウ・ツユクサ・ユキノシタなどが咲いているでしょう。ご苦労が多いでしょうが、がんばってください。　中野スミ子

★なかなか利用できず残念ですが、ますますの発展を祈っています。　常行敏夫

▼164号で阿部斉様のお名前に誤りがありました。訂正してお詫びを申し上げます。

平成14年度 宿泊業務白書

■年間の宿泊利用者数二八、〇〇六人

平成14年度の宿泊利用者数は延べ二八、〇〇六（月平均二、三三三）人（表1）で、前年度に比べ、一、二〇一人の減少、主催セミナーでの宿泊を除くと268名の減少である。表1の通り今年度は会員校の利用が減少し、一般学生団体の増加が目立つ。また、今年度の利用の特徴としては、利用者数は減少したが利用グループ数は増加したことである。近年の傾向は利用者数、グループ数とも並行的に減少していたので新しい現象といえる（これは4、5月の大グループの利用が減少したことによる）。

■平成14年度から料金体系を変更し、前年の4タイプ（会員校、一般学生団体、学会、社会人団体）を3タイプ（会員校、一般学生団体、社会人団体）にわかりやすくし、社会人の料金を前年の学会並に引き下げた。

■利用者種別利用状況

利用者種別延人数の構成比は図1に示すとおりである。

会員校の利用は一三、二八一人で、昨年に比べて二、二一二人の減少。これは、ユニット・ハウスの一時閉鎖が影響して4、5月の新入生オリエンテーションが減少したためである。一般学生団体の利用が昨年度より宿泊延べ数で20％（一、六八四人）増えた主な理由は、8年間続いているマレーシア留学生の40泊に加え、11月にセルジ・ポントワーズ・ワークショップの外国人学生約60名19泊の利用があったためである。

なお、参考までに、本年度最多利用の会員校上位校を表2で紹介した。グループ数、宿泊延人数とも毎年中央大学、明星大学の通信教育スクーリング利用者が大きな割合を占めている。

社会人団体としては、昨年賛助会員に入会した健通技研株式会社が、昨年に続き新入社員研修で9泊の利用があり宿泊延人数の上位になった。今後、開かれたセミナー・ハウスとして社会人の利用を期待したい。

■宿泊施設の年間稼働率は26％

本年度の当ハウスの稼動日数は、年末年始の休館8泊、6月の施設整備期間4泊分を差し引いた353日で、宿舎（収容定員300人）の年間稼働率は26％であった。図2に月別稼働率を示した。

表1　利用者別状況表　　（　）内は前年度

人数 / 利用者	グループ数	比率（%）	宿泊実人数	比率（%）	宿泊延人数	比率（%）	1団体平均人数
会員校	337（343）	50（58）	8,057（11,094）	54（62）	13,281（15,493）	47（53）	23（32）
一般学生団体	134（100）	20（24）	3,756（3,432）	25（19）	9,959（3,432）	36（28）	36（34）
社会人団体	203（141）	30（18）	3,151（3,256）	21（19）	4,766（3,256）	17（19）	16（48）
合　　計	674（584）	100	14,964（17,782）	100	28,006（29,207）	100	22（30）

表2　協力会員校最多利用上位10校

大学名	グループ数	大学名	宿泊延人数
中央大学	46	明星大学	1,209
早稲田大学	26	中央大学	975
法政大学	22	早稲田大学	807
東京学芸大学	20	東京学芸大学	616
東京都立大学	20	法政大学	603
日本大学	13	東京薬科大学	602
一橋大学	11	東京都立大学	536
青山学院大学	10	白梅学園短期大学	526
桜美林大学	10	日本大学	476
武蔵工業大学	10	東京都立短期大学	416

賛助会員

健通技研株式会社	513

図2　月別平均稼働率

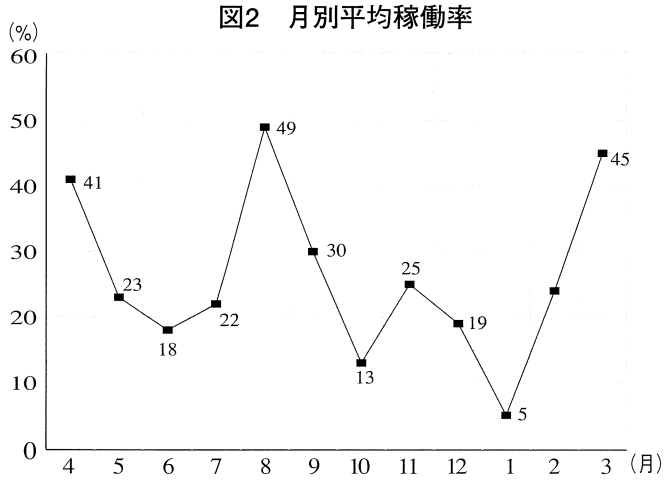
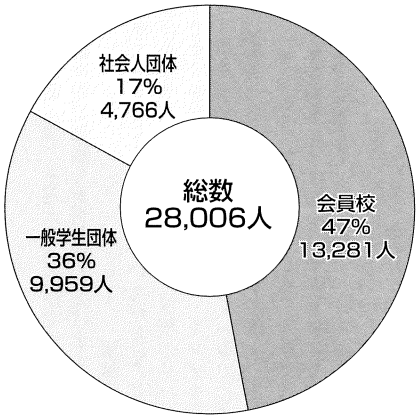


図1　利用グループ構成比



ご利用状況

'02年10月～'03年6月
＊＝同月2回利用。
＊＊＝同月3回利用。
日帰りはグループ数のみ
（延べ人数には日帰りの利用者は含まず。）
☆＝オリエンテーション

■10月（35グループ、延一、一七一人）
中央大学商学部
早稲田大学建築学科
東京学芸大学キャンパスクルセード
帝京大学留学生
東京学芸大学自治会
東京理科大学建築設計ゼミ
お茶の水女子大学地理学コース
学習院大学フランス会部
武蔵大学卒業研究演習
共立女子大学助教授　阿部圭子
早稲田大学教授　渡辺仁史
法政大学教授　伊藤玄三
東京都立大学竜星群
中央大学国際関係研究会
法政大学英語サークルCLS　関口定一
中央大学教授
滋賀県立八幡工業高等学校
自治医科大学看護学部
地球化学若手会
杏林大学教授　千葉　洋
日輪グループ
武蔵野市役所
東京クイズ倶楽部
小金井緑町教会
混声合唱団「螺旋」
ベストグループ
昭和大学医療短期大学OB
㈳日本エネルギー学会
NPO法人JUST
NPO話し方普及協会
㈳日本POP広告協会
〈個人利用〉
大阪市役所　根来譲二
〈日帰り〉
ベストグループ
水彩画同好会＊
㈱メディカルラボ

■11月（36グループ、延二、二七九人）
東京都立大学教授　大塚和夫
中央大学総合政策学部
東京外国語大学講師　笹岡雄一
東京都立大学教授　深尾精一
桜美林大学教授　大木昭男
立教大学教授　庄司洋子
早稲田大学講師　齋藤祐子
桜美林大学教授　永瀬順弘
一橋大大学野林ゼミ
中央大学教授　徳永英二
フレンズ（中央大学・大妻女子大学・芝浦工業大学合同ゼミ）　佐藤主光
一橋大学教授
武蔵工業大学システム工学研究室
お茶の水女子大学留学生センター
日本女子大学附属高等学校
日本聖書神学校
東京IT会計法律学園
近代民衆史研究会
千葉明徳短期大学講師　金　瑛珠
グローブ日本（東京学芸大学）
東京商科学院専門学校
セルジポントワーズ都市計画ワークショップ
受験生
自然体験活動推進協議会
万国ローア・バプテスト福音伝道協会
プロバンズ絵の仲間
社会言語学刊行会
ルソール合奏団
そごう労働組合八王子支部
カネボウ化粧品東京多摩支社
アレクサンダー・アソシエイツ
毘沙門天管弦楽団
㈲ジェームス事務所
日輪グループ
〈日帰り〉
水彩画同好会＊
山吹句会俳句の会
㈱ノジマ
武蔵野外語専門学校
U研究室松崎義徳さん偲ぶ会
ワインお楽しみ会

■12月（50グループ、延一、三八八人）
桜美林大学教授　瀧井光夫
立教大学観光学部
東京学芸大学助教授　国分　充
中央大学石川フュージョンゼミ
東京都立大学助教授　福井　学
日本大学教授　山岡永知
法政大学教授　相田利雄
国際基督教大学カウンセリングセンター　谷　晃
帝京大学教授　肥前栄一
中央大学教育学サブゼミナール　田中拓男＊
中央大学教授　後藤春彦
早稲田大学教授　栗林　世
中央大学教授　入江隆則
明治大学教授
法政大学テニスサークル　上坂　昇
桜美林大学教授　外山公美
日本大学助教授　川島浩平
武蔵大学助教授
日本女子大学文学部英文学科アメリカ研究　神武庸四郎
一橋大学教授　関根康生
日本女子大学教授　今井昭夫
東京外国語大学教授　蓼沼宏一
一橋大学教授　青木人志
東京外国語大学学生課
工学院大学教授　吉田倬郎
日本大学教授　有賀　弘
法政大学教授　中俣　均
立教大学教授　李　鍾元
立教大学助教授　有馬賢治
早稲田大学教授　平澤茂一
日本大学洋弓部
明星大学通信教育部
第23回社会学合同セミナー
環境経済学交歓セミナー
DJS（ディスコ就職サークル）
茨城大学教授　菅沼憲治
東洋大学助教授　小林正夫
南八王子サッカークラブJrユース
第29回国際学生セミナー
和光大学助教授　井出健二郎
日本国連協会学生連盟国連研プロジェクト
創価女子短期大学イタリア研究会
昭和大学医療短期大学OB
川崎応援会
学校図書館問題研究会東京支部
文学教育研究者集団
AITC
〈個人利用〉
東海大学講師　谷　晃
〈日帰り〉
水彩画同好会＊
マレーシア大使館
八王子福祉レクリエーションハート＆ハートの会
ワインお楽しみ会

■1月（21グループ、延三〇二人）
桜美林大学教授　岩井清治
一橋大学教授　鴇田忠彦
東京農業大学助教授　大久保武
法政大学教授　加藤敏雄
東京外国語大学教授　田島信元
東京都立大学教授　岩楯敏広
明星大学「接続」刊行会
中央大学大学院森田ゼミ
駒澤大学助教授　谷敷正光
中央大学教授　亀山三郎
中央大学総合政策学部
法政大学教授　清水幹夫
第5回大学職員セミナー
神田外語大学教授　塚本慶一
東洋大学教授　森田　明
受験生
東京フリー・メソジスト教会青年会
スマイルデザイン
日輪グループ
昭和大学医療短期大学OB
〈日帰り〉
共立女子大学助教授　阿部圭子
水彩画同好会
松下ライフエレクトロニクス㈱

■2月（37グループ、延一、九九七人）
法政大学助教授　宮城　孝
駒澤大学教授　瀬戸岡紘
明治学院大学教授　井上孝代
明治大学助教授　出見世信之
法政大学環境サークルヘルプ　岩崎三郎
青山学院大学教授
中央大学遠藤ゼミ
明治大学教授　西野万里
千葉大学教授　村山眞維
日本大学講師　益井公司
青山学院大学教授　林　吉郎
法政大学教授　寺東寛治
東京都立大学教授後　藤　一美
早稲田大学教授
千葉大学教授　堀口健治
日本大学雄弁会　武蔵武彦
東京学芸大学幼児教育学科
東京外国語大学助教授　丹羽　泉
駒澤大学助教授　谷敷正光
明治学院大学Ⅱ部体育会
日本大学芸術学部デザイン学科
城西大学公務員講座
創価大学教授　長谷部秀孝
聖学院大学宗教センター
東京都立科学技術大学福利厚生委員会
聖学院大学ハンドベルクワイア
東京IT会計法律学園
アジア科学教育経済発展機構
受験生
㈱ウイルビー
武蔵野フォークダンス同好会
(財)日本宇宙フォーラム
(社)日本POP広告協会
(財)社会経済生産性本部
(社)日本山岳協会
〈日帰り〉
水彩画同好会
帝京大学吹奏楽団

■3月（71グループ延四、一四三人）
武蔵工業大学エコーワークス
東京都立大学教授　江原由美子
慶應義塾大学教授　柳田利夫
中央大学辞達学会
東京学芸大学キャンパスクルセード　山口和孝
埼玉大学教授
東京経済大学ヘーゼル
中央大学教授　藪田雅弘
青山学院大学助教授　須田昌弥
早稲田大学教授　吉野　孝
武蔵工業大学教授　湯本雅恵
武蔵工業大学助教授　岸田治夫
東京工科大学ADVANCEDCRE
ATROS
東京理科大学教授　狩野紀昭
東京経済大学文化会本部
国際基督教大学教養学部
横浜国立大学助教授　小川慎一
中央大学次田グループ
東京都立大学助教授　山川　仁
千葉大学教授　野沢敏治
中央大学アナウンス研究会　佐藤洋一
早稲田大学講師
青山学院大学聖歌隊
青山学院大学教授　東方敬信
千葉大学教授　工藤秀明
早稲田大学鈴木恂研究室
早稲田大学教授　大槻義彦
東京学芸大学SCENT
慶應義塾大学小熊英二研究会
ICU祭実行委員会
東京農工大学助教授　朝岡幸彦
東京学芸大学教授　山田有策
東京学芸大学教授　馬場哲生
青山学院大学教授　土山實男
日本大学助教授　古田智久
明治学院大学教授　水谷史男
明星大学教授　光成豊明
法政大学教授　渡辺真理
青山学院大学教授　中澤進一
青山学院大学教授　平澤典男
現代経営学研究会
洗足学園大学音楽教育部会
第188回大学共同セミナー
NPO法人キャリナビ
大学キリスト者の会
宇宙大学
東京都立科学技術高等学校生徒会
城西大学公務員講座
基礎総合
東京IT会計法律学園
獨協高等学校生徒会
現代と経済
九州看護福祉大学哲学研究会
九州選抜高等学校レスリング
東京工科専門学校
アジア科学教育経済発展機構
受験生
日輪グループ

フッサール研究会
純福音東京教会連合聖歌隊
クリエイティブアート実行委員会
㈱タイアップ
滝野川教会青年会
文学教育研究者集団
㈱ジャパンプリントシステムズ
〈個人利用〉
中央大学通信教育生　菊地久子
東京芸術大学　傳田正則
〈日帰り〉
水彩画同好会*
ワインお楽しみ会
高嶺小学校

■4月（54グループ、延四、〇四〇人）
ＩＣＵdebatingsociety
埼玉大学教授　福岡安則
明治大学教授　森　久
東京都立比較文学比較文化研究室
入生☆
中央大学独文学専攻新入生☆
青山学院大学助教授　飯田敬輔
東京学芸大学家庭科新入生☆
東京都立大学人文学部教育学専攻新入生☆
東京都立大学電子情報工学科新入生☆
東京外国語大学教授　藤田　進
中央大学総合政策　小林　晃
日本大学教授
東京工芸大学工学部新入生☆
健通技研㈱新入社員研修
お茶の水女子大学理学部・生活科学部新入生☆
桜美林大学助教授　牧田東一
東京学芸大学社会科教室新入生☆
東京都立大学工学部応用化学科新入生☆
中央大学心理学研究室新入生☆
工学院大学教授　浮田静雄
東京都立短期大学経営システム学科新入生☆
日本大学ケンブリッジ大学サマースクール事前研修
東京都立短期大学経営情報学科新入生☆
東京大学国際環境協力コース
中央大学文学部教育学研究室新入生☆
早稲田大学教授　毛里和子
東洋大学社会文化システム学科フレッシュマン・キャンプ
東京都立大学学術会
中央大学教授　田中拓男
青山学院大学聖歌隊
法政大学教授　清水幹夫
中央大学教授　宮野洋一
佼成学園高等学校
杏林大学教授　斉藤元秀
サイエンスキャンプ２００２
榛東中学校・光陽中学校
都留文科大学教授　三井須美子
文教大学教授　広内哲夫
東京ＩＴ会計法律学園
東京コンピューター専門学校新入生☆
東京工科専門学校新入生ガイダンス
東京工科専門学校フレッシュマン研修
日本医歯薬専門学校新入生研修
杏林大学教授　熊谷文枝
高尾山観光開発㈱
リラクゼーション・スペース・アワネス
㈱スリーボンド
自費出版ネットワーク
㈳茶道裏千家淡交会青年部関東第1ブロック
〈個人利用〉
郡内研究会　和田明子
〈日帰り〉
水彩画同好会*
ＧＥ横河メディカルシステムＩＢチーム
マレーシア留学生セミナー

■5月（60グループ、延二、四五五人）
早稲田大学教授　加納貞彦
中央大学白門会
青山学院大学新聞編集委員会
芝浦工業大学工学部情報学科学習院大学シェイクスピアドラマソサエティ
早稲田大学芸術学校
早稲田大学放送テレビ研究会
中央大学教授　南原一博
東京都立大学物理学科新入生☆
東京都立大学機械工学専攻新入生ガイダンス
東京農工大学有機材料化学科新入生☆
中央大学辞達学会
横浜国立大学租税研究会
東京学芸大学生物学科新入生☆
アイセック一橋大学委員会
青山学院大学物理学科新入生☆
早稲田大学芸術学校
白梅学園短期大学保育科新入生☆
青山学院大学教授　富山　健
帝京大学講師　郷　健治
東京学芸大学表現コミュニケーション専攻新入生☆
武蔵工業大学工学部教職課程
早稲田大学教授　山本武利
東京都立大学地理学教室
東京都立短期大学文化国際学科新入生☆
東京学芸大学幼児教育学科新入生☆
早稲田大学RADIATOR
中央大学国際関係研究会
立教大学教授　郭　洋春
中央大学商法研究会
武蔵工業大学教授　皆川　勝
青山学院大学教授　稲積宏誠
立教大学教授　上田　信
一橋大学教授　関　直彦・教授湊博昭合同ゼミ
東京工業大学教授　木嶋恭一
青山学院大学教授　関　英昭
中央大学教授　中川洋一郎
明治学院大学教授　熊本一規
東京学芸大学学校教育教室
愛知朝鮮中高級学校
創価大学ロシア語専攻新入生☆
アイセックジャパン
都留文科大学教授　河村茂雄
エイエフエス日本協会東京多摩支部
駒沢女子大学基礎ゼミ新入生☆　椎名和男
杏林大学教授　野田陽子
淑徳大学教授　小川家資
帝京科学大学助教授
多摩経済研究会
ファイナンシャルテクノロジー㈱
構造学習研究会5月フォーラム
トヨタホーム東京㈱*
㈳日本建築家協会関東甲信越支部
インパクトジャパン㈱
日経総合印刷グループ会
昭和大学医療短期大学ＯＢ
八王子ワイズメンズクラブ
日本分光㈱
セイラーズ
〈個人利用〉
中央大学通信教育生　菊池久子
〈日帰り〉
㈱フロンティア
裏千家伊藤社中お茶会

■6月（28グループ、延一、六三一人）
東京工芸大学映画研究室
明治学院大学・早稲田大学合同ゼミ
東京大学駒場祭委員会
中央大学教育学サブゼミナール
日本大学教授　大内宏友
東京理科大学工学二部建築学科
明治大学教授　入江隆則
中央大学教授　桐山　昇
第7期日本インド学生会議
朝鮮大学校経営学部
ＮＰＯ法人ＺＥＲＯキッズ
山梨大学川村研究室
第4回「世界とアメリカ」セミナー
神奈川大学教授　西久保忠臣
国連研プロジェクト
日本女子大学附属高等学校
第31回十大学合同セミナー
㈱セルシス
第24回日豪合同セミナー実行委員会
日輪グループ
㈲ジェームス事務所
トヨタホーム東京㈱
㈱日経総合印刷
㈱キーバインド
万国デフバプテスト協会
㈳日本建築家協会建築セミナー
〈日帰り〉
いろりの郷**
早稲田大学芸術学校

平成14年4月～5月新入生オリエンテーション合宿実施状況

学校名・学科名　*は2泊	学生	教師	合計
●4月　（18グループ）			
東京都立大学　人文学部史学科	30	14	44
中央大学　独文学専攻	76	5	81
東京学芸大学　家庭科	46	4	50
東京都立大学　人文学部教育学研究室	45	10	55
東京都立大学　電子情報工学科	75	10	85
東京工芸大学　工学部	134	18	152
お茶の水女子大学　理学部・生活科学部	308	25	333
東京学芸大学　社会科教室	78	8	86
東京都立大学　応用化学科	64	8	72
中央大学　心理学研究室	77	2	79
東京コンピューター専門学校	134	28	162
東京工科専門学校	231	14	245
日本医歯薬専門学校	174	8	182
東京工科専門学校	294	12	306
東京都立短期大学　経営システム学科	107	12	119
東京都立短期大学　経営情報学科	192	18	210
中央大学　文学部教育学研究室	46	6	52
東洋大学　社会文化システム学科	148	16	164
●5月　（11グループ）			
創価大学　ロシア語専攻	36	9	45
東京都立大学　物理学科	56	8	64
東京都立大学　機械工学専攻	33	5	38
東京農工大学　有機材料化学科	65	24	89
東京学芸大学　生物学科	24	4	28
青山学院大学　物理学科	72	17	89
白梅学園短期大学　保育科*	250	17	267
駒澤女子大学　基礎ゼミ	141	7	148
東京学芸大学　表現コミュニケーション専攻	37	6	43
東京都立短期大学　文化国際学科	100	13	113
東京学芸大学　幼児教育学科	24	3	27
計29グループ　（15校）　実人数	2,565	228	2,793
延人数	3,097	331	3,428

第40回大学教員セミナー

教員の教育力を高める

―評価の時代の大学教員のあり方

平成15年9月13(土)～14(日)

近年の大学改革の動きの中で、注目されるのは、教育内容や方法の改善である。大学教育の大衆化や初等中等教育の変化の中で、学生の学力低下や学習意欲の減退が指摘されている。大学にとって、従来のように選ばれた人材に高邁な学問を授けさえすればそれでよかった時代は去りつつある。我々大学関係者には、学生の多様化に対応した教育内容や教え方の工夫に格段の精力を注ぎ、大学教育の質を維持する努力が求められている。それは、教員の教育力の向上とでも言うべきものであろう。大学評価がすべての大学にとって必須となったいま、改めてその重要性を認識しなければならない。ただそれらは、単に短期的な就職対策や大学評価対策ではなく、中長期的視点に立った人材養成や大学教育のあり方とも関わる問題として捉える必要がある。学生にとって必要な教育とは何か、どのように教えればよいのか、など大学教員の教育力を高めるためのさまざまな方策について、講師の話題提供をきっかけに、大いに議論を戦わせたい。

【基調講演】**教員の教育力を高める**

帝京平成大学教授、元筑波大学副学長　原　康夫

【提　題】

①**日本における初年次教育のあり方**（京都文教大学人間学部教授・中村　博幸）②**日本語表現法と大学教育**―講義と入試の実例から―（京都精華大学人文学部教授・筒井洋一）③**専門教育のインセンティブ**（日本女子大学家政学部教授・石川孝重）④**学生の多様化に対する組織的対応の戦略**―アメリカ・オセアニアの経験を踏まえて（関西国際大学人間学部教授・濱名　篤）

第7回大学職員セミナー

大学危機回避

―今、大学人がなすべきこと―

変わる大学、変わらない大学

平成15年10月3(土)～4(日)

国立大学法人法の成立（平成15年7月9日）。来年4月には89の国立大学法人が誕生する。国立大学が国立大学法人に変身することによって我が国の高等教育システムはどのように改革されるのだろうか。国・公・私立大学間の競争に加え、国立大学法人間の競争も生まれる。大学の淘汰は確実に進むことになる。今日こそ、国・公・私立大学の垣根を超え、大学マネジメントの中心的担い手である職員のなすべき責務と役割を真剣に考えるときである。

第6回大学職員セミナーで好評の「自己表現トレーニング」により、活発な討議を通じ問題点を深化するとともに、幅広いヒューマン・ネットワークを創られることを期待したい。

【基調講演】

☆**国立大学法人化　変わる国立大学　変わらない国立大学**

文部科学省高等教育局専門教育課長　杉野　剛

☆**国立大学法人化　変わる私立大学　変わらない私立大学**

前日本私立大学連盟事務局長・機会均等等研究所代表　日塔喜一

【特別講演】

大学危機回避、大学人がなすべきこと

京都大学事務局長　本間政雄

第189回大学共同セミナー

食と人間

平成15年11月8(土)～9(日)

世界の多くの地域で飢餓がある一方で先進国では飽食があるが、その食料さえ安全性が問われている。BSE(狂牛病)、食材に含まれる有害農薬、遺伝子操作された農産物などの安全性が問われる中で、その安全管理などの社会的行政的対応も問われている。食の供給システム自体がグローバル化している現代において、正当な供給のありかたとその安定性についても、世界が共通認識をもつことが必要であろう。また、先進国における食生活は、グルメブームと呼ばれるような贅沢志向が顕著な反面、ファーストフードの普及に表れているように、均一化の方向があり、食材の多様性も無くなりつつある。また、食事のコミュニケーションとしての側面についても再評価すべきかもしれない。このように、食は極めて身近で日常的なことであるにも関わらず、あるいは、そうであるがゆえに、現代という時代の問題性を強く反映している。

今回の共同セミナーでは、「食と人間」をテーマにして、我々の日常生活における科学技術のありかた、社会システムのありかた、生活の豊かさとは何か、を深く考え議論したい。

【基調講演】

☆**共に生きるために**

―グローバル化時代の「食」と「農」

アジア学院校長　田坂興亜

☆**日本の食卓の変遷**

国立民族学博物館教授　熊倉功夫

【分科会】①**食の安全保障**（田坂興亜）②**遺伝子組み換え作物と環境・食糧問題**（市民バイオテクノロジー情報室代表・天笠啓祐）③**日本料理の歴史**（熊倉功夫）④**コミュニケーションとしての食事行動**―文化人類学の視点から（武蔵大学人文学部教授・西澤治彦）

第30回国際学生セミナー

アメリカのリーダーシップと抵抗する世界

(American Leadership and Resisting Powers)

平成15年11月22(土)～23(日)

イラク戦争は予想通り米英の軍事的勝利だった。独裁者サダム・フセインの生死もなかなか確認できず、米国の「先制攻撃」の最も有力な理由だった「大量殺傷兵器」生産の証拠も、ブッシュ大統領自身によって戦争の終結が宣言された後もなお発見されなかった。冷戦に勝利し「単独覇権国家」となったアメリカだが、完全なリーダーシップを発揮するのは容易ではない。徒にネオコン的な激しい言葉が目立ち、力の行使と説得の使い分けは巧くない。来年秋には大統領選挙。内政外交ともに政策は年明け早々から選挙目当て一色になりかねない。問われるのは、同盟関係の再調整であり、多角的な関係の再構築である。日本は今度の戦争で、イラクの戦後の復興への積極的協力を早くから打ち出し、米国にとって頼み甲斐のある国との評価を高めた。今後これをどう具体化するかが問われる。北朝鮮の核を何としても抑えこまなければならない。

【基調講演】演題未定

NPO法人・岡崎研究所理事長　岡崎久彦

【分科会】①欧州（東京外国語大学教授・渡辺啓貴）②中東（放送大学教授・高橋和夫）③中国（学習院大学教授・中居良文）④北朝鮮（静岡県立大学助教授・小針進）⑤日本…英語セクション（青山学院大学教授・高木誠一郎）※プログラムは一部変更となる場合があります。

セミナーに関する最新情報はホームページまたは企画広報課まで

TEL　0426・76・8532

FAX　0426・76・1220

E-mail　kaku-koho@seminarhouse.or.jp

http//www.seminarhouse.or.jp

創立四十周年記念募金第4回報告

□寄付総額　二一、六〇三、五二三円
（平成15年3月31日現在）

千人会員、利用者、主催セミナーの講師の皆様、企業及び各種団体から多大なご寄付をいただき、平成15年3月31日現在で二一、六〇三、五二三円となりました。ここに感謝をこめて、本紙第164号掲載以降の申込者の御芳名を以下に記載させていただきます。

□募金申込者ご芳名（入金順）
（平成14年10月1日～15年3月31日）

五〇、〇〇〇円　高橋誠殿
五〇、〇〇〇円　中山祐輔殿
一〇、〇〇〇円　藤ビルメンテナンス殿
一〇、〇〇〇円　鶴田正美殿
五〇、〇〇〇円　有限会社アイワテクニカルサービス殿
二〇、〇〇〇円　中央フジクリーン株式会社殿
五〇、〇〇〇円　日研フードサービス株式会社殿
五〇、〇〇〇円　田村献殿
一〇、〇〇〇円　宮下幸雄殿
一〇〇、〇〇〇円　電算印刷株式会社殿
一〇、〇〇〇円　菊池隆事務所殿
一〇〇、〇〇〇円　武田薬品工業株式会社殿
五、〇〇〇円　吉原健吾殿
一〇、〇〇〇円　小林澈郎殿
一〇、〇〇〇円　久保謙一殿
五〇、〇〇〇円　石田産業有限会社殿
五〇、〇〇〇円　三多摩燃料株式会社殿
三〇、〇〇〇円　増田義男殿
五〇、〇〇〇円　株式会社三協空調サービス殿
五〇、〇〇〇円　八南交通株式会社殿
五〇、〇〇〇円　株式会社テンセンター殿
五〇、〇〇〇円　酢屋善元殿
八五、四二三円　大学セミナーハウス旅行会殿
一〇、〇〇〇円　河原食品株式会社殿
一〇、〇〇〇円　永町敏昭殿
一〇、〇〇〇円　佐木豪殿
一五、〇〇〇円　森山ヨシ子殿
一〇、〇〇〇円　東京八王子ワイズメンズクラブ殿
一〇、〇〇〇円　泉治典殿
二〇、〇〇〇円　秋山正幸殿
一、〇〇〇、〇〇〇円　佐野博敏殿
三、三〇〇、〇〇〇円　倉郷環境対策協議会殿
五、〇〇〇円　真瀬礼子殿
二〇、〇〇〇円　大村晴雄殿
五、〇〇〇円　松澤正夫殿
五〇、〇〇〇円　東京八王子南ロータリークラブ殿
一〇、〇〇〇円　西川孝夫殿
三〇〇、〇〇〇円　財団法人本田財団殿
一〇、〇〇〇円　安田青果殿
二〇〇、〇〇〇円　絹川正吉殿
一八、五八〇円　佐藤東洋士殿
五、〇〇〇円　須藤貴以子殿
五、〇〇〇円　長崎久江殿
五〇、〇〇〇円　板垣興一殿
五〇、〇〇〇円　高倉翔殿
一〇〇、〇〇〇円　今井栄殿
一〇、〇〇〇円　古矢鉄矢殿
二〇、〇〇〇円　慶伊富長殿
一〇、〇〇〇円　木田宏殿
五、〇〇〇円　生山智己殿
二〇〇、〇〇〇円　川原栄峰殿
一〇〇、〇〇〇円　志村尚子殿
一〇、〇〇〇円　松本隆殿
一八、九二〇円　上野格殿
一九、二四〇円　椛嶋裕之殿
一八、二六〇円　篠田節子殿
一〇〇、〇〇〇円　岡村弘之殿
二〇、〇〇〇円　安田忠郎殿
五〇、〇〇〇円　丸山友一殿
一〇、〇〇〇円　藤田淑子殿
二〇〇、〇〇〇円　中川秀恭殿
一〇、〇〇〇円　文学教育研究者集団殿
二〇、〇〇〇円　野嶋忍殿
三〇、〇〇〇円　大塚商会八王子支店殿
一〇、〇〇〇円　松本浩之殿
一、〇〇〇、〇〇〇円　株式会社東芝殿

留学生会館建設にご支援を
――開館40周年記念募金のお願い――

皆様方のお力添えを賜っております当大学セミナー・ハウスは、昭和37（1962）年3月に財団法人としての設立が認可され、3年後の昭和40（1965）年7月に開館しました。平成17（2005）年7月には開館40周年を迎えますが、これを契機に留学生支援事業を立案いたしました。

わが国で学ぶ留学生は、平成14年5月現在で約95,000人を超えましたが、そのうち公的宿舎への入居留学生数は約25,000人で、うち国・公・私立大学の留学生宿舎には約14,500人（全体の約15％）が入居しているに過ぎません。多摩地区の各大学でもますます留学生数が増加する傾向にあり、良質で低廉な宿舎を確保することは重要な課題となっております。

当ハウスでも、これまで日米・日韓などの学生レベルの国際交流集会や来日留学生・研究者のための日本研究プログラム、最近ではマレーシア留学生の長期滞在など各種の国際的な研修を受け入れてまいりました。こうした経験を踏まえつつ、留学生を支援する施設を建設し、当ハウスを利用する方はもちろんのこと、地域住民との日常的な国際交流の場を提供してまいりたいと存じます。

今日の厳しい経済状況につきましては承知しておりますが、前回の募金趣旨をより具体化し、継承する今回の事業計画にご理解賜り、何卒格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

□募金目標：200,000千円
□募金口数：個人一口5,000円・法人一口50,000円
□募集期間：2003年７月１日から2005年６月30日
□払込方法：郵便局または取扱銀行よりお振込ください。
□免税措置：ご寄付は「特定公益増進法人」に対する寄付金として税金優遇措置が受けられます。

募金に関するお問合せ
財団法人大学セミナー・ハウス　総務施設課
TEL：0426-76-8511　FAX：0426-76-1220
E-mail：info@seminarhouse.or.jp
URL：http://www.seminarhouse.or.jp/

館長室から

当大学セミナー・ハウスは、自然環境が本当に素晴らしいので、いつ来ても心が洗われる思いです。この春には、谷間の枝垂れ桜が満開の折に、多摩の民家を移築した遠来荘で、近隣の市民の参加も得て観桜会を催しました（表紙写真、参照）。

このところ、当ハウス主催セミナーが好評です。就任早々の御手洗康・文部科学事務次官が講演された大学職員セミナーについては、『毎日新聞』（二〇〇三年一月二八日付）に牧太郎氏が「例えば大学改革である。先週末、東京都八王子市で行われた大学職員セミナー『大学危機回避モラールとミッションの再構築』で就任直後の御手洗康・文部科学次官が講演した。誇り高い大学人が『危機回避』なんて言葉を使い、国会対策で多忙な次官が若手の職員に『改革』を訴える。珍しいことだと思い、見学した。そうした『緊張』は改革が前進している証拠である。」と書かれています。

この7月5日には、同じく文部科学省の板東久美子・人事課長が「大学が変わる　今職員のなすべきこと」と題して講演されましたが、全国各地から大学職員が集まり、真剣な議論が展開されました。

最後に、厳しい経済情勢下で苦慮しております免税優遇措置付きの募金活動につきましては、期間が二年間延長されましたので、留学生会館の新設を目標に「開館40周年記念募金」として再スタートいたしたく、重ね〳〵でまことに恐縮ですが、何卒宜しくお願い申し上げます。

（中嶋嶺雄）

セミナー・ハウス
2002年10月～2003年6月分
第165号
定価：200円
発行=財団法人　大学セミナー・ハウス
〒192-0372　東京都八王子市下柚木1987-1
TEL　0426-76-8511　FAX　0426-76-1220
振替口座　00150-1-74590
発行人=中嶋　嶺雄
編集=大学セミナー・ハウス企画広報課
制作=中山企画
SEMINAR　HOUSE
The Journal of Inter-University Seminar House No.165
(October 2002～June 2003)